

会員 各位

平成25年03月31日

NPOソフトインダストリー研究会

理事長 白石 嘉宏

巻頭言

## 大丈夫かしら?

アベノミックスは強い経済力を持つ日本を目指しています。でも本当に強くなるのでしょうか? また私達の所得は増えるのでしょうか?

確かに円安に向かい輸出企業は収益を上方修正しました。金融緩和、大型の財政投資が約束され株価も上昇しました。先の太平洋戦争ではエネルギーの基となる石油の確保が求められて戦争に突入しました。今の時代戦争には突入しませんが、エネルギーを基とする経済戦争は日常行われ続けています。円安による影響は人々の日々の生活、先ずエネルギー価格の上昇から直撃し始めました。電気料金の上昇、ガソリン・灯油価格の上昇です。今日電気なしには生活できません、テレビもパソコンも冷蔵庫も洗濯機も、電車もトラック物流輸送も……。もう一つ生きて行く上で無ければならない食品も価格の上昇に見舞われています。ほとんど全てを輸入に頼っている小麦は1割近い価格上昇になります。飼料穀物もほとんど全量輸入ですから、物価の優等生といわれている卵を始め国内生産の全ての畜産物価格が上がらざるを得ません。もちろん石油が上がっているのですから、これからはハウス栽培の農産物価格も上昇します。パンも麺も卵も肉も乳製品も野菜も日々口にする全てが価格上昇することになります。

アベノミックス 3人組SET



経済と言っても、企業とそこで働く人々と同じ方向に向かうとは限りません、いや、それどころかこれからは企業収益を上げると言うことは賃金が抑制される、減額される可能性があります。デフレは確かに企業収益を落としましたが、これは2つの生産過剰が有るからです。供給力が消費量を上回っているからです。一つはもちろん国内競争に因る価格下落です家電量販店の価格競争は苛烈です、またインターネットに依る商品情報の豊富さ中間マージンを伴わない販売方式による価格競争もあります。

もう一つは全世界規模での競争です。円より下の銭の単位まで切り込む原価競争、そうして少しでも安い物をつくる、そのためには安い人件費を求めて投資を行わざるを得ない企業の宿命です。日中関係が厳しくなる前から、中国の人件費の上昇は企業収益を圧迫して来ていました。もっと安価に製品を作るには別の国を探さねばならない、民度が高くそれで居て安い人件費の国に生産拠点を移す。そうすることで競争力を保持することになります。企業がとらねば成らない行動は国内での雇用はもとより現状の人件費の上昇も抑制しなければ海外との競争には勝てません。

アベノミックスでは、先ずは企業収益が上がりその2年後ぐらいに賃金が上昇するというシナリオになっています。しかし、その2年間の間、上昇する税金と社会保障、全ての物価が上昇する中で国民は暮らさなければ成りません。当然爪に火をともしような生活を強いられます。消費はさらに落ち込み、その落ち込みをカバーするために更なる価格競争となり、企業収益を悪化させ倒産する企業もでてくることあるでしょう。アベノミックスは本当に大丈夫なのでしょうか?

## SORUCA 通信 contents

- 巻頭言 大丈夫かしら?
- ソルカ活動計画
- 人口構成から見る私達の暮らし セミナーに向けて
- 潮目の世紀 - これからのライフスタイル -
- 編集後記



## ソルカ活動計画

### 本年度の活動計画のご案内

ソルカではセミナーと言う講演会ではなく、出席者が親しく意見を交わせる本来のセミナー形式による少人数の集まりでの知識経験の交流を本年度から始めることにしました。

私達の周囲は此処に来て誰でもが、今までと同じではないと思い始めて居ます。通信・交通・物流全てに渡り狭く身近になる世界。国際関係、世界経済、自然災害、

国内経済と街の変貌、そういう中で必然化してくる長寿化、その長寿化に伴う暮らし方などをテーマにしていきます。

私達の寿命は経済の発展と共に周りの衛生環境が格段に良くなり、さらに医療技術・サービスの進歩に支えられて寿命は延び続けています。そういう中現在ではIPS細胞という今までの概念を覆す治療方法も開発され、更なる人々の健康と長寿が期待されています。

「元気で綺麗で楽しく」が我々ソルカの目標です。人生はどうかや90年に向かっていきます。この生涯時間をどのように過ごすかと言うことと、私達を取り巻く環境がどのようなものか、

どのように成ってゆくのか、その変化について、良く知り予測を立てるとともに、目標の「元気で綺麗で楽しく」をテーマに本年度はセミナー行いたいと思います。

まずは少子高齢化の現状と予測。次に人が暮らす場所の変化さらにライフスタイルの変化など判断の基となるところから取り上げてゆきます。

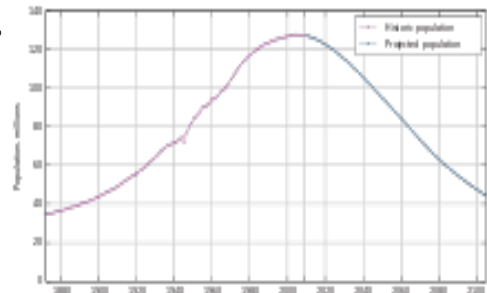
ご案内は近々差し上げますので、お時間の都合つく方はぜひご参加下さいますようお願いいたします。



# 人口構成から見る私達の暮らし

## セミナーに向けて

私（白石）は何時も人口構成を軸に社会を見ています。世界で元気な国は何処も国民の平均寿命が若い国です。アラブ諸国ではジャスミン革命が2011年チュニジアから始まりました、日本でも若者が多かった時代、1959の安保闘争その後1969年の東大紛争まで10年に渡り若者達による騒乱が続きました。若い人が多い、それは経済面でも政治面でも大きなエネルギーを発生変化を起こしています。



私達は日々の変化、起こった事件に対して目が向きがちですが、その背景根底には「人」そのものの集団がどういう姿になっているかを見るのが大切です。そういう目で見ると日本は全体的に国民が成熟化してきています、ですから従来成功してきた政策をさらに大規模で行っても国民の年齢構成が大きく変わっていますから嘗てのように上手く行くかどうか疑問です。新規に橋を道路を作ればその維持管理の費用が発生します。人の成熟により医療費が増大してゆくように我が国のインフラにも同様維持費がかかり、新規に作ればその費用も増大します。一方その費用を負担する人口は減少するうえ年金受給者が増え、納税額はさらに減少します。

人口構成変化の具体的な事例として、全国から人が集まり続けている東京でも昨年の推計では1956年に統計を取り始めてから始めて自然減に転じました。これは生まれてくる人よりも高齢化が進み亡くなる方の方が多くなったからです（社会増がありますから都の人口は未だに38,599人昨年も増加しています）。

このことから、今後の変化が読み取れます。生まれてくる人が少なくなる、一方それでも東京には人が増えているということは全国規模で見れば生まれてくる子供も減り、東京などへ転居する人が出ている地域があるということです。人口問題研究所の昨年発表した推計では西暦2060年の人口は8674万人と今よりおおよそ4000万人減少します。平均すればこれから先の45年間、毎年80万人近くの方が減り続けることとなります。これは東京なら世田谷区、県で言えば福井県とか徳島県が丸々誰も居なくなる人数に相当します。

さらに、これを世帯構成で見ると2035年には一人暮らし世帯が全体の37%になり夫婦と子供が居る世帯は23%になってしまうと推計されています。



国としてみれば、人口が減るのですから消費は激減します、供給量を落とさなければ供給過剰ですから価格下落に向かい続けますつまりデフレになります。そういう中で医療費や介護の費用は増大して行きます。自治体では町や村に住む人が減少し存続できない所が出てきます。

人の居るところ、さらに増えてゆくところなら人を雇うことが出来るし物は売れますから企業はそちらに事業基盤を移して行かざるを得ません。東南アジアなどへの移転は必然です。生産拠点、販売拠点、が移ります。



ブラックホールに小さな惑星が吸い込まれるように人の集まるところにさらに人が集まります。

病院、学校、買い物、交通の便、警備、エンターテイメントなどアメニティーの整っているところには誰でも住みたいと想うでしょう。個々人の側に立てばこのような所を選んで転居して行くことになります。

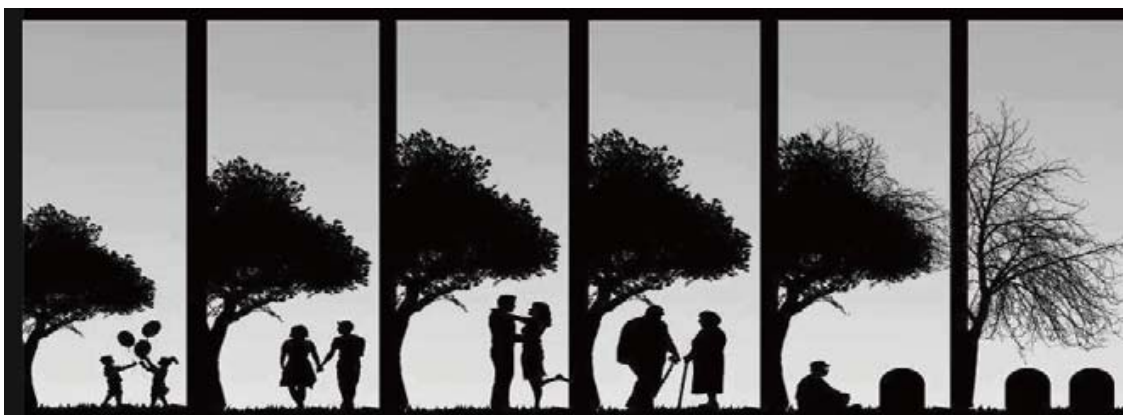
私達は今まで人は増えて当たり前という時代を生きてきました、しかしこれからは人が減ってゆくの当たり前と言う社会に変わってゆくのです。

まだ、そう簡単には頭の切り替えが出来ないでしょうが変化が顕在化してからでは出遅れます。まずは概念として今までとは異なる社会が始まるということ意識して下さい。

解かり易いところでは相続人が減るのですから、当然空き家が増えて行きます。

作ることがメインだった時代から整理することが必要な時代になります。

次回は、個人が「元気で綺麗で楽しく」について考えたいと思います。





## 潮目の世紀

### —これからのライフスタイル—

今世紀は私達の国はもとより世界中の国にとっても潮目の世紀になるでしょう。我が国は少子高齢化が進むばかりでなく長寿化なのに人口減少に向かいます。一方 EU 諸国は人口面ではさしある変化は有りませんし同様に経済成長も期待薄です。このように 19 世紀から今まで世界の経済と文化で指導的な地位を持っていた国々と地域は停滞期に入ります。これに対して前世紀の後半は韓国、中国、タイ、マレーシアなどアジア諸国が台頭しさらに近年ではインドを加えて東南アジア全体が人口面でも経済面でも伸び続けています。長らく停滞していたアフリカ諸国も今世紀に入り急速に成長してきています、南米も同様です。人口地図も経済地図も今世紀の前半のうちに大きく変わって行きます。

では、私達の国はこの大きな変化の中で取り残されるのでしょうか。確かに今までと同じ手法ではたとえ規模を拡大しても若い人が多く、消費が活発でコストの安価な国には勝てません。ですからまずは視点を変え今後何処の国でも我が国同様進んでゆく高齢化のモデルとなる新たな先進国を目指すことです。

長寿化を楽しむライフスタイルを作り、そのライフスタイルに合わせた空間デザイン、財とサービスの供給という新たな産業を育てることです。

このライフスタイルを支えるエネルギーも同様新たな取り組みに入る時代になって来ました。我々人類は風や水の流れを使う時代から火を使い蒸気のパワーを使うようになり、さらに内燃機関を発達させる中で電力も使うようになりました。大量の物資生産や輸送、人々の活動にはそれを支えるエネルギーが必要となります。CO<sub>2</sub> や窒素酸化物を出さない、クリーンなエネルギーとして原子力発電も始まりました。

確かに原子力は高出力を可能にします。燃料も長期間使えます、空気も汚しません。しかし 2 年前の 3 月 11 日以後、福島原発は壊れて放射能を出し続けていますし、同様放射能を出し続ける使用済み燃料の置き場所も一時しのぎ以上の方策は未だに見つかっていません。放射能被害を受けた地域は「除染」と言うことで、表土を削り取っていますが、放射能を発生する表土はおき場所も無く積み上げられその後のあても無くさまよっています。核を使う、その後使用済みの核をどうするのか。作るよりも収める技術の開発、この流れを確立するのがこれからの課題です。この技術開発が少しでも進めばたとえ未完成でも世界中が喜んで迎えてくれます

原子力のサイクルは未完成ですから今のところ残るのは宇宙と地球との関係から得られるエネルギーと地球自体が持つエネルギーの活用開発です。



宇宙との関係では太陽光、此処からは熱や光それにバイオ燃料が得られます。月との関係では潮流、地球自体としては地熱、気象の活用による風雨雪など。さらには人の営みそのものが出す廃棄物糞便などがあります。

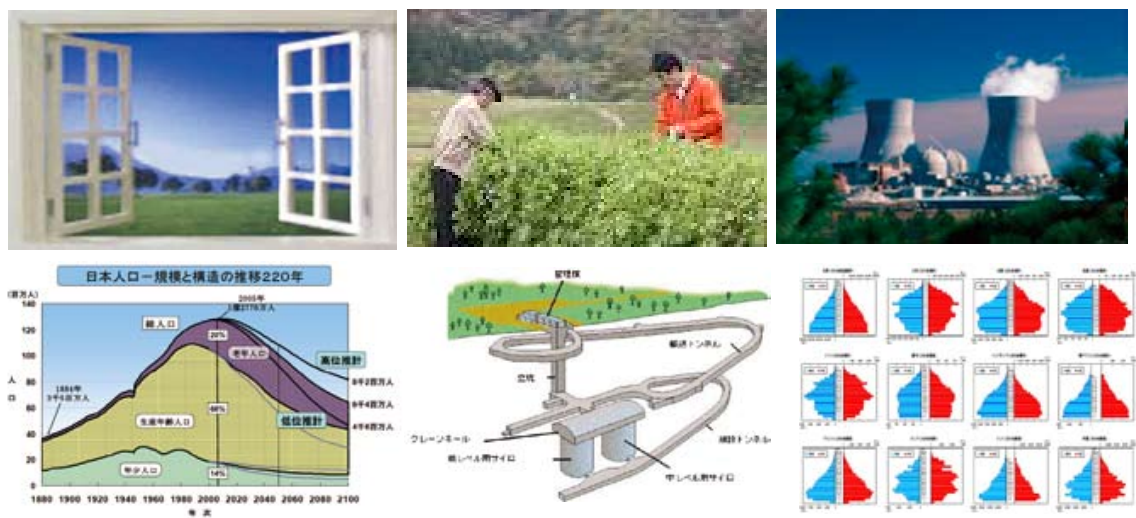
もう一つ、我が国は人口が減って行きますから、今までの箱物は次々と不要になるでしょう。インフラも縮小します、するとこのようなことに対応する技術や制度も必要です。

国としてはこのような人口構成、エネルギー生産の対応ばかりでなく量は減るが快適に過ごせるインフラと環境技術の開発を行わねばならなく成ります。これが進めば我が国の後に続く高齢化諸国への指導・ライセンス収入が得られる様になります。物の輸出から知恵の輸出になります。

私達はこのような予測される21世紀の潮目の変化に対して、時代をリードするライフスタイルを作っていくことが自身はもとより他の国々にとっても憧れのモデルになって行くでしょう。

今世紀は未だ始まったばかりですが、今までと同じ経済構造を世界規模で続けることは無理だということが間もなく人々に認識されるようになるでしょう。

人々のこれからのライフスタイル、それは優れた環境の中で元気で綺麗で楽しく暮らすことです。国も企業もその暮らし方を支えることによって発展します。その姿が成長してゆく国々の指針になるのです。



## 長寿の時代は日々の習慣から

皆が長寿に向かうようになると日々の暮らし、その暮らし方そのものが寿命を決めてゆくことが今回の長寿県ランキングが発表された後新聞・テレビを始め多くのメディアから報道されました。

要旨は脂肪の取りすぎが良くないこと、高齢化してもタンパク質は取らねば体の老化が早く進むと言うことでした。

今まで長寿県としての地位を保っていた沖縄は女性が3位に男性は30位に後退しました。その原因が戦後アメリカ軍が進駐してきてから高脂肪の食品がやファーストフードが取り入れられ60歳以下の世代では全国平均よりも肥満が多いという事実が指摘されています。昔からの食生活を続けている高齢者は今でも健在です。

一方で、コレステロールを気にすることから、子供が巣立った後、高齢となった家庭では野菜中心の食事を志向し肉類を敬遠。これで健康に成ると思っていながら実は、骨も筋肉も減少して行き、体全体が萎縮、さらに老化が進行し短命になるとのことです。

大切なことは出来るだけ多くの種類の食品を摂取し蛋白質（脂肪の多いお肉は敬遠）を高齢に成っても摂取し続けるということです。右の表をご覧ください。東京・神奈川・千葉など首都圏の男性は長寿ベスト15に入っています。そうして女性のランキングより上位です（寿命は女性の方が上回っていますが）。

一方大都市を持たない県の男性は下位に位置しています。多様な食品に接する機会の問題なのか、今後の課題です。

皆さん、明日からはタンパク質の摂取を続けましょう。

都道府県別 平均寿命ランキング 平成25年公表

都道府県別 平均寿命 (2013年公表)					
ランキング	男		女		
	全 国	平均寿命	ランキン	全 国	平均寿命
		79.59			86.38
1	長野	80.88	1	長野	87.18
2	滋賀	80.68	2	長野	87.07
3	福井	80.47	3	沖縄	87.02
4	熊本	80.29	4	熊本	86.98
5	神奈川	80.25	5	新潟	86.96
6	京都	80.21	6	広島	86.94
7	奈良	80.14	7	福井	86.94
8	大分	80.06	8	岡山	86.93
9	山形	79.97	9	大分	86.91
10	群馬	79.95	10	富山	86.75
11	岐阜	79.92	11	石川	86.75
12	広島	79.91	12	滋賀	86.69
13	千葉	79.88	13	山梨	86.65
14	東京	79.82	14	京都	86.65
15	岡山	79.77	15	神奈川	86.63
16	香川	79.73	16	宮崎	86.61
17	愛知	79.71	17	奈良	86.6
18	石川	79.71	18	佐賀	86.58
19	富山	79.71	19	愛媛	86.54
20	宮崎	79.7	20	福岡	86.48
21	三重	79.68	21	高知	86.47
22	宮城	79.65	22	東京	86.39
23	埼玉	79.62	23	宮城	86.39
24	兵庫	79.59	24	香川	86.34
25	山梨	79.54	25	北海道	86.3
26	鳥取	79.51	26	長崎	86.3
27	新潟	79.47	27	鹿児島	86.28
28	徳島	79.44	28	山形	86.28
29	群馬	79.4	29	岐阜	86.26
30	沖縄	79.4	30	三重	86.25
31	福岡	79.3	31	愛知	86.22
32	佐賀	79.28	32	静岡	86.22
33	鹿児島	79.21	33	徳島	86.21
34	北海道	79.17	34	千葉	86.2
35	愛媛	79.13	35	兵庫	86.14
36	宮城	79.06	36	鳥取	86.06
37	和歌山	79.07	37	山	86.07
38	熊本	79.06	38	徳島	86.06
39	山口	79.03	39	秋田	85.93
40	鳥取	79.01	40	大隈	85.93
41	大隈	78.99	41	群馬	85.91
42	高知	78.91	42	埼玉	85.88
43	長崎	78.88	43	石川	85.86
44	徳島	78.84	44	宮城	85.83
45	石川	78.83	45	和歌山	85.69
46	秋田	78.72	46	熊本	85.66
47	香取	77.28	47	香取	85.34

※平成22年国勢調査による日本人人口（推定数）を基準資料としております。厚生労働省公表

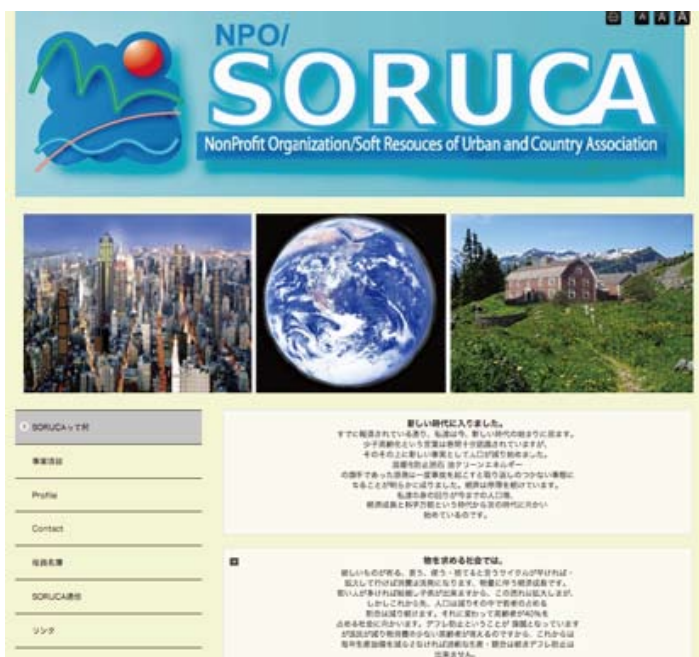


< 編集後記 >

東日本大震災から2年が経ちました。あの津波の映像、福島原発の現在の映像を見て、人は忘れないでいようと思っても、いつの間にか思いは薄らいでゆくに気づきます。「ホビー村」をつくろう、との思いから12年。

いまだ実現できないでいます。思いは日々新たに実現に向け、来年度も取り組んでゆきます。(渡辺)

SORUCA のホームページの画面です。 <http://sorca.p2.weblife.me/>



「特定非営利活動法人ソフトインダストリー研究会」広報誌  
SORUCA 通信 (2013 年春号)

発行責任者 白石 嘉宏  
発行所 NPO ソフトインダストリー研究会  
東京都新宿区矢来町 47 番地  
TEL: 03-3266-1769  
FAX: 03-3266-1764

<http://sorca.p2.weblife.me/>  
編集人 渡辺 勝範・長谷川 毅  
発行日 2013 年 3 月 31 日



発行元 :NPO ソフトインダストリー研究会